盛岡YMCA
みつかる。つながる。よくなっていく。
No.041 2021

YMCA News 8.9

2021 年 9 月 10 日発行
認定 NPO 法人 盛岡 YMCA
〒020-0021
盛岡市中央通 3-7-18
ラ・ベルヴィ中央 1F
Tel 019-623-1575
Fax 019-623-1579
www.moriokaymca.org
発行人 / 濱塚　有史
編　集 / 本部事務局

「頼る」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です
16 平和と公正をすべての人に

いつもの日常の中で誰にでも、生きづらさを感じる場面があると思います。私の場合、それは「てんかん」という持病でした。私が「てんかん」だと診断されたのは、社会人になってからでした。私の主な症状は「文字や数字が読めなくなる」、「一見普通に過ごしているように見えるが、意識がなくなっている」、「いきなり意識を失い、倒れる」という発作です。

子どものころから他の子とは違うところがあるということは、自分でもわかっていました。「周りの子は読めているのに自分は読めない時がある」、「自分はしっかり先生の話を聞いているのに先生に怒られる」という経験から『自分は何をしてもダメなんだ』と劣等感を感じていました。ですが、私が今こうして楽しく過ごしていけているのは周りの支えがあったからです。家族は、私の症状について責めることはありませんでした。家族は「苦手な所は誰にでもあるのだから」と話していました。病気発覚前の私のことを聞いてみると、「気にしていなかった。得意なところがあったから別に全然気にすることもなかった。」と、笑いながら、家族は話してくれました。また、友達も私のことを見捨てず、周りに頼ってもいいことを知り、私の生きづらさは軽くなり、支えてくれた方々に今でも感謝の気持ちが溢れています。

もし、「今、とても苦しんでいる」、「生きづらくて耐えられない」と思っている方は一度、『あなたをとても大切だと思っている人がいること』、『まわりに頼っていい』を思い出してみてください。頼ること、打ち明けることはとても勇気がいることです。私もとても勇気がいることでした。ですが、もしそれが一部の人から責められたとしても、「受け止めてくれる」、「あなたが大切」だと思ってくれる人は必ずいるのです。

こうして読んでくれた方々は、思いやりを持ち、偉大な方々だと本当に思います。そのことを誇りにしてほしいと心から思っています。

盛岡YMCA前潟センタースタッフ
大久保　里美

盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1．こどもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2．家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3．共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

～ 2021 ～サマーキャンプ報告

【森の大自然満喫キャンプ】

7月24日（土）から25日（日）の1泊2日、子どもたち30名、大学生ボランティアリーダー10名、スタッフ3名の計43名で、外山森林公園で、森の大自然満喫キャンプへ行ってきました。

始めは緊張している様子も見られた子ども達ですが、バスの中やキャンプ場でのレクリエーションを通して緊張もほぐれ、自然と会話が生まれる場面も多く見られました。野外炊事では、薪割りから火付け、飯ごうを使っての炊飯、食材を切るなど一からカレーライスを作りました。夕食時は自分たちで作った特別なカレーライスを「美味しい!!」と言いながら食べている子や、中には苦手な食べ物も挑戦して食べている子もいました!!

2日目のレクリエーションでは『ジャンケン大会』をしました。森の中で宝箱を探して、ジャンケンのカードを探したり、友だちと協力してミッションをクリアして特別なカードをゲットしたり、グループ内でどうやってジャンケンに勝つか作戦を考えながら、みんなでゲームを楽しんでいました。午後のフリータイムでは、のびのびとアスレチックで遊んだり、仲良くなった友達と仲良くおやつを食べたり、池の周りを探検したりなど思い思いに最後までフリータイムの時間を過ごしていました。

そんな2日間を終えた帰りのバスの車内は、静まることなく、最後までリーダーたちと楽しもうという気持ちがあふれている空間となっていました。

盛岡YMCAボランティアリーダー
十文字堅斗(おびリーダー)
（岩手県立大学3年）

【島のわくわくキャンプ】

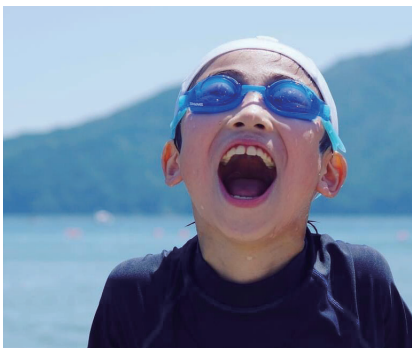
こんにちは、はっちです！私から、2021年島のわくわくキャンプの報告をさせていただきます。8月4日から8月7日までの3泊4日、休暇村陸中宮古キャンプ場で行われました。子ども30人、リーダー11人、スタッフ2人での活動となりました。行きのバスから、クイズで盛り上がり、ワクワクを募らせ、キャンプ場に到着したら、協力してテントを張り、グループごとの旗づくり。とても個性あふれる旗が誕生していました。夜は花火をしたのですが、きれいな花火を楽しんでいました。

2日目は午前中と午後、浄土ヶ浜に行き、海水浴をしました。待ちに待った海ということで、みんな一目散に海へと走り出していきました。鬼ごっこをしたり、水のかけあいをしたり、生き物を見つけたり、石で岩盤浴をしたりと、色々な遊びを生み出しながら、思い切り海を満喫していました。海から帰ってきた後は、スイカ割をしました。友達を一生懸命誘導する姿や、スイカを思い切り叩き割る姿など見られました。

3日目の午前中はこのキャンプ最後の海水浴をしました。遊び残しのないように思い切り遊ぶ姿が見られましたが、子ども達からは帰る際に、「まだ遊びたい！」という声がたくさんあがりました。午後からは、次の日に行うお祭りプログラムの準備をしました。グループのメンバーでたくさん話し合って屋台の出し物を考え、各々工夫して一生懸命屋台を作っていました。

そして4日目は、いよいよお祭り本番。屋台の店番をして自分の屋台を盛り上げる子、他のグループの屋台に行き、たくさん遊んでいた子、屋台の宣伝を色んなところを周ってしている子などがいました。お楽しみのステージ発表では、個性あふれる発表ばかりで大盛り上がりでした。帰りのバスもその楽しい雰囲気が続いていました。まだまだ思い出はたくさんありますが、本当に色んなことがあり、子どももリーダーもたくさん成長できたキャンプになりました。みんなと一緒にキャンプができて本当に楽しかったです！ありがとうございました！

盛岡YMCAボランティアリーダー
佐藤亜美(はっちリーダー)
（岩手大学4年）



ちきゅうと、あそぼう。～活動報告～

「6月野外活動をふり返って」

6月27日、外山森林公園にて野外活動を行いました。今回の活動は、グループごとに好きな食材をスーパーで購入し、それを自分たちで起こした火で焼いて食べてみよう、というものでした。移動中のバスで、買いたいものをグループごとに相談して決め、店内を一緒に回って買い物をするという体験は、私たちリーダーにとっても新鮮で、何より子どもたちはいろいろな商品を見て回りながら、とても楽しそうに買い物をしていました。外山森林公園に到着してからは、購入した食材を焼くための火付けの活動をしました。

薪割りから始まるのですが、安全のために長袖・長ズボン、軍手に帽子と装備をととのえるとなかなかに暑い。ですが、子どもたちは暑さにめげることなく、リーダーと一緒になって一生懸命薪割りをし、火が点く様子に感動したり、火を絶やさないように一生懸命うちわで風を送ったりしながら活動することができていました。食材によって火にかけた際の変化は様々で、いい匂いがすることや色が変っていくことなどに興味津々でした。焼き上がった食材は、お昼ご飯の時間に一緒に食べました。どのグループの子どもたちも自分たちで火をおこし、調理した食材のおいしさにとても満足していた様子で、お昼ご飯の時間はとても盛り上がっていました。その後は、フリータイムをとり、設置されているアスレチックで遊んだり、虫取りをしたり池でザリガニを探したりなど、思い思いの楽しみ方で午後の時間を過ごしました。終盤、一時的に雨に見舞われましたが、そんなハプニングも楽しめているほどに子どもたちは元気いっぱいに遊んでいました。

この活動で子どもたちは、買い物や調理などの日常にあるような活動から、火付けなどの非日常的な活動まで幅広い経験をし、リーダーたちもこれらの活動を子どもたちと行うことで多くの学びや発見を得られる一日となりました。

盛岡YMCAボランティアリーダー　星野太志(ゲンリーダー)
（岩手大学3年）

ご協力ありがとうございました

生活に困難を抱えているご家庭等に無償で食料支援を行っている団体「フードバンク岩手」を通して食材の寄付を盛岡YMCAの会員の皆さんに呼びかけたところ、段ボール箱4箱分の食材約60キロと、13,571円の寄付が集まりました。放課後児童クラブ「ぷらいむ・たいむ中央校」に通う、1年生と2年生が盛岡YMCAを代表して食材を届けに行ってきました。

盛岡市及び岩手県内において、コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかからない状況となっており、先日岩手県知事より、岩手県緊急事態宣言が発令されました。それに伴い、公共施設の利用中止、並びに盛岡YMCAのボランティアリーダーが所属している各大学も、外部活動が禁止となっている状況にあります。そのような状況にあり、盛岡YMCAでは、放課後児童クラブ以外の全プログラムを、9月いっぱい中止とさせていただくことといたしました。なお、今後につきましては、盛岡市及び岩手県内の状況、各所轄庁の指示に基づき、対応を決定してまいります。

YMCAのプログラムを楽しみされているお子様方には大変申し訳ございませんが、ご理解とご了承をいただけますようお願いいたします。

盛岡YMCAの職員は、9月4日(土)と9月11日(土)に、及川忠人氏(盛岡YMCA理事、一般財団法人みちのく愛隣協会　東八幡平病院　地域リハビリテーションセンター理事長・病院長)を講師にお迎えし、『COVID-19感染予防対策について』の講義をいただき、YMCAの各活動に参加されている皆様に、安全で安心な場を提供することが出来るよう、正しい知識と感染予防対策について、職員一同学びを深めていきます。

盛岡YMCA本部事務局　浅沼慧

※ポジティブネット㉜

16 平和と公正をすべての人に

「サラサラ姫の物語」

先日、盛岡市立図書館に行く機会があった。小学6年生の頃借りた本なので、ダメ元で聞いたみたらなんと貸し出し可能だという。社会科見学で訪れた際、先生から「なんでもいいから借りてみなさい」と言われて借りた本だ。表紙の絵が可愛かったので選んだだけで、最後まで読みはしたが、中味はさっぱり覚えていない。約50年振りに読んでみるとこんな内容の話だった。

砂漠の真ん中にあるサラバン王国のサラサラ姫は、亡き母の出身地である北の海の王国に嫁ごうと考え、お供の若者と二人で広い砂漠を越える旅を開始する。途中、嵐や盗賊の難、渇きや寒さに耐えながら、やっとの思いで目的の国に到着するのだが、肝心の王様は既に結婚していた。夢破れた姫は、自分のすべきことは、故郷の国にかえって、父である王を助け、サラバン王国を素晴らしい国にすることだと気づくのだった。

なんとなく、メーテルリンクの「青い鳥」の結末に似ているような気もするが、旅の最後にサラサラ姫がつぶやいた一言が気になった。

「…人間は一人でたくさんの面を持っているのだわ。だけどひとりが十の面を持ち、千人が万の面を持っているとしたって、その千人をつなぐ共通なものがあるはずだわ。それがなかったらどうして今まで何千年という長い間たくさんの人間が一緒に生きてこれたのでしょう?」

台湾のデジタル担当大臣、オードリー・タン氏は、コロナ後の世界についてこう語っている。**「世界は、対立より対話で、共通の価値観を見つけるべきだ。」**半世紀以上も前のしかもファンタジーの登場人物と、現代を代表する世界の英知が奇しくも同じことを考えているなんて、ちょっと不思議な気持ちになった。

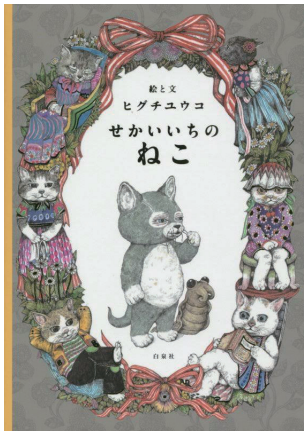
「信仰の弱い人を受け入れなさい。その考えを批判してはなりません。何を食べてもよいと信じている人もいますが、弱い人は野菜だけを食べているのです。食べる人は、食べない人を軽んじてはならないし、また、食べない人は、食べる人を裁いてもなりません。神がその人を受け入れてくださったのです。
（ローマの信徒への手紙1～3節）

盛岡YMCA　総主事　濱塚有史

絵本コラム⑮

4 質の高い教育をみんなに

『せかいいちのねこ』



絵と文
ヒグチユウコ

「そうか！ヒゲだ！ほんもののピカピカのヒゲを手にいれよう！ぼくはもっと愛されてせかいいちのねこになって男の子が大きくなってもいっしょにいるんだ！！」と意気込んでいるのは、主人公の「ニャンコ」という名前の、ねこのぬいぐるみです。

ニャンコは、いつも一緒にいた男の子が7歳になり、これからも一緒にいられるのか心配になってしまいます。そんなニャンコは本物のねこになるため、友達のアノマロと一緒にねこのヒゲを手に入れる旅に出ます。出発して最初に出会ったのが、小ねこの時にいろんな人に可愛くない、みっともない柄と言われ、帽子を深く被り顔を隠しているねこでした。ニャンコはねこに優しく声をかけ、泣いてしまったねこの涙をふいてあげます。

「こんなふうに男の子のなみだをふいてあげてきたんだよ。きみにもそうしてあげたいと思うあいてがみつかると思う。」

その言葉でやっと笑顔を見せてくれたねこと友達になります。旅の途中では、耳にキズのあるねこ、優しいねこなどたくさんのねこに出会います。

そして、ほんもののねこもニャンコと同じように不安を抱えていることを、ニャンコは知ることになります。旅を終えたニャンコは、ほんもののねになれるのでしょうか…

それぞれにとっての「せかいいち」とはどういうことなのかを考えるきっかけを作ってくれる、とても心が温まる1冊です。

YMCA前潟センタースタッフ　菅原茉理奈

～　感謝　～

（2021年8月27日現在）敬称略

●維持会員

山本常緒、古澤伸、長岡正彦、吉﨑陽、光永尚生、上條直美、工藤悦子、佐藤翔、大関靖二、人見晃弘、押切梓、増田隆、一戸貞文、若井淳、高橋奈菜、伊藤眞一郎、伊藤みどり、及川茂夫、accommon、森山日菜乃、森山幹大、伊藤眞太郎、伊藤愛美、伊藤信彦、淺沼誠久、清水治彦、今野健男、武田理惠子、川坂保宏、魚住惠、魚住英昭、高橋友惠、熊谷亜希子、高瀬稔彦、田村育代、滝川佐波子、井上修三、井上優子、井上浩太郎

最新情報はこちらでチェックできます！「盛岡 YMCA」で検索ください。

ホームページ：https://www.moriokaymca.org/
facebook：https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/

表紙の写真から

3 すべての人に健康と福祉を

県境を越えての移動の停止の提言が出されたため、急遽、宮城県の気仙沼大島から宮古での開催となった「島のわくわくキャンプ」。浄土ヶ浜の海は抜けるように透き通っていました。